

2024年度決算(案) 説明資料

「金利ある世界」における価値の創出と新たな利益配分方針	P1	【ご参考】	
2024年度決算(案)のポイント	P2	「THE MUTUAL ACT 2027」の概要	P11～ P12
保険業績の状況	P3～ P4	13年連続増配の内容と個人保険の配当金例	P13
資産運用の状況(富国生命単体)	P5～ P6	学資保険と個人年金保険の配当金例	P14
基礎利益、自己資本の状況	P7	標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響	P15
健全性の状況	P8	主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P16
2024年度決算の社員配当金案	P9	2025年度業績見通し	P17
配当還元の加速	P10		

富国生命保険相互会社

2025年5月26日

人と人の間に

フコク生命

THE MUTUAL

「金利ある世界」における価値の創出と新たな利益配分方針

「金利ある世界」における価値の創出

リスク・リターン効率が最適となるポートフォリオのもと運用収益を拡大

- ◆ 金利上昇局面をとらえ、円建公社債の銘柄を入替え
- ◆ 物価上昇が定着する中、中長期的に収益性の向上が見込める株式やファンドの積増し
- ◆ 貯蓄性商品の予定利率を引上げ※1、金利上昇にキャッチアップした利差配当の増配

※1 2023年4月～学資保険:0.9%→1.15%、2024年4月～個人年金保険:0.65%→最大1.35%

新たな利益配分方針

「ご契約者への配当還元」「従業員の処遇改善」そして「内部留保」の順序で利益配分を行う※2

- ◆ 「より早くより多く、長く続けて頂いた方にはさらに多く配当をお返ししたい」という想いのもと、配当還元を加速
- ◆ 従業員の給与引上げに加え、職員還元を目的とした任意の積立金を創設
- ◆ 危険準備金と価格変動準備金は、ほぼ限度額まで積上げ

※2 2024年7月の定時総代会にて表明

2024年度決算(案)のポイント

1 過去最高の基礎利益

- 富国生命とフコクしんらい生命合算の基礎利益は、前年度比15.4%増加の1,148億円となり、2年連続過去最高を更新。保険料等収入も増加し、増収増益
- 富国生命では、利息及び配当金等収入は7年連続で過去最高を更新。その結果、個人年金の販売増に伴う標準責任準備金の積増しを行ったうえで基礎利益は過去最高を更新
- フコクしんらい生命では、一時払終身保険の販売好調により基礎利益は過去最高を更新。創業以来はじめて100億円を上回る水準を確保

2 過去最大の増配額

- 個人保険分野で13年連続の増配
危険差配当や利差配当など幅広く増配するとともに、新たに「THE MUTUAL プラス配当」を実施
- 配当が割り当てられる契約は、有配当契約の87%に相当する305万件、増配額は前年度の約2倍の101億円で過去最大、純剰余に対する配当還元率(配当性向)は71%^{※1}
- 保障性商品の10年累計配当金は保険料の1.2年分を上回る^{※2}、貯蓄性商品についても大幅増配
- 団体年金についても運用の成果を増配により還元し、配当込み利回りは1.9%^{※3}と業界最高水準

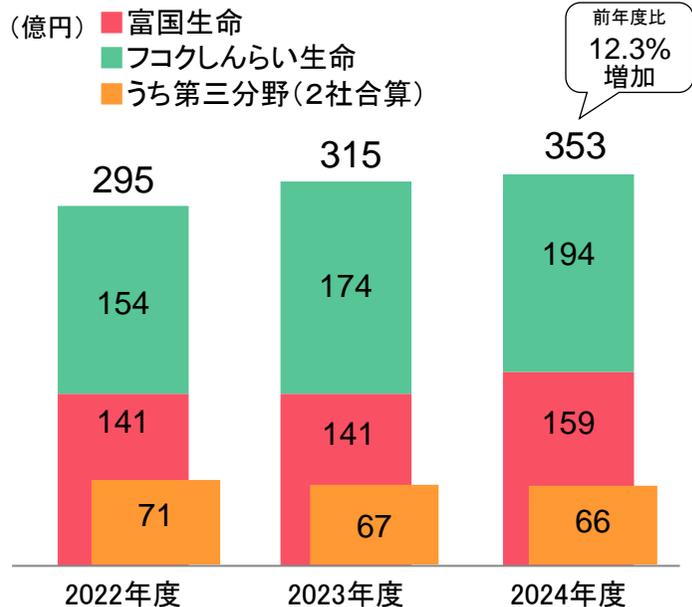
※1: 社員配当準備金繰入額(462億円)÷純剰余(653億円、当期純剰余に内部留保の超過繰入額を加算し基金利息等を控除した額)

※2: 2025年度に10年目を迎える代表的な契約の例

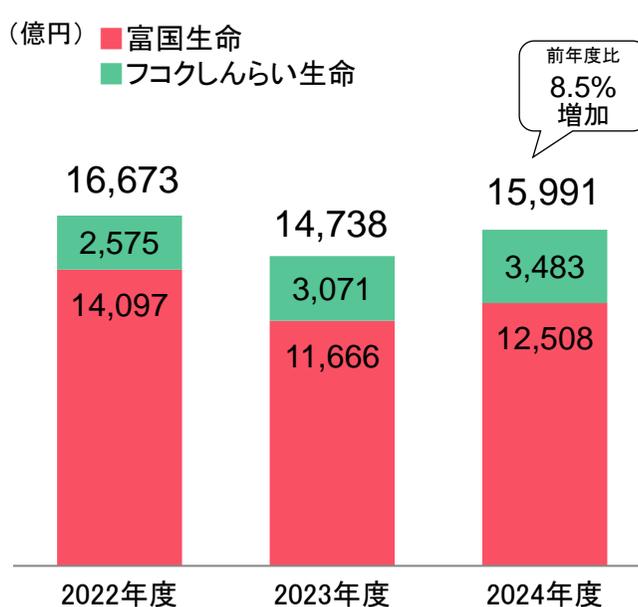
※3: 確定給付企業年金保険

保険業績の状況（1）新契約

新契約年換算保険料



新契約高

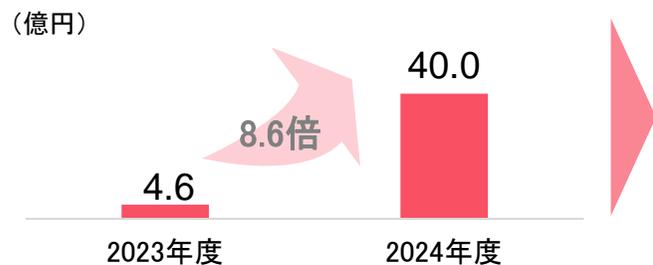


※個人保険と個人年金保険の合計

- 新契約年換算保険料は、2社ともに増加し、前年度比12.3%増と、4年連続で増加
- 富国生命の個人年金やフコクしんらい生命の一時払終身保険の販売好調が主な要因
- 個人年金の新契約年換算保険料は、2024年4月に予定利率を引上げ(保険料を引下げ)たことにより、同8.6倍増加。個人年金から「未来のとびら」へのクロスセル件数も4.6倍増加
- 新契約高は、前年度比8.5%増と3年ぶりに反転増加。富国生命では、個人年金の販売好調に加え、「未来のとびら」の純新契約も増加。フコクしんらい生命は、2024年4月より発売の80～90歳の方を対象とした利率固定型一時払終身保険が寄与し、継続して伸展

[個人年金「みらいプラス」の新契約年換算保険料]

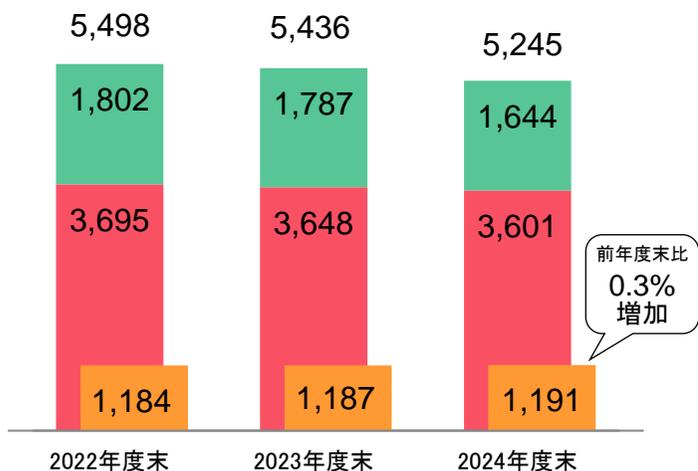
[主力商品「未来のとびら」へのクロスセル件数]



保険業績の状況（2）保有契約・保険料等収入、金融機関窓販

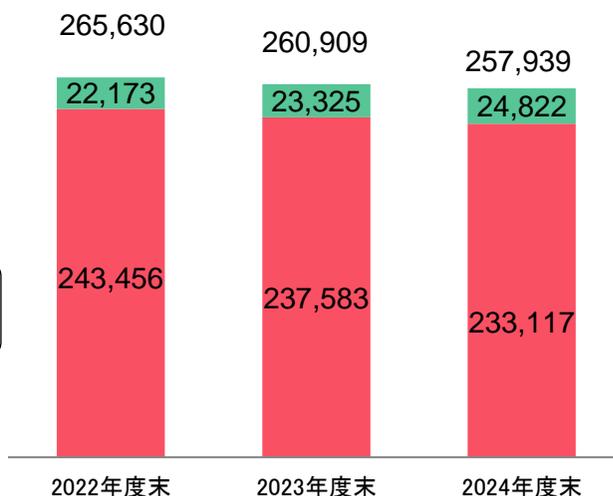
保有契約年換算保険料

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命
■うち第三分野(2社合算)



保有契約高

(億円) ■富国生命 ■フコクしんらい生命

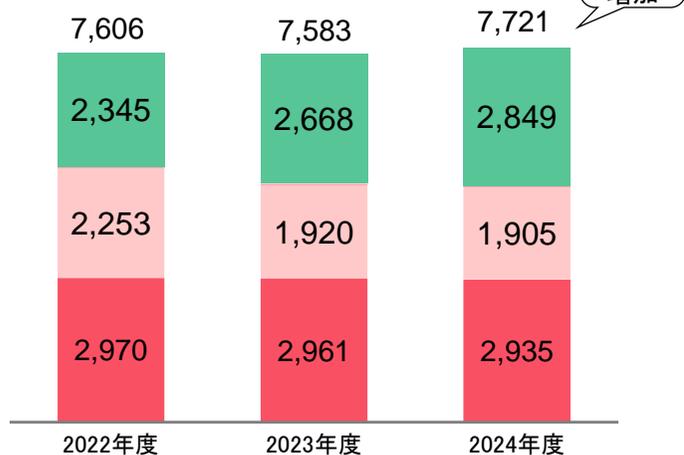


※個人保険と個人年金保険の合計

- 保有契約年換算保険料は、フコクしんらい生命で個人年金の支払満了契約が増加したことにより減少
- 第三分野の保有契約年換算保険料は、前年度末比0.3%増加。2003年度の開示以来プラス伸展を継続
- 保有契約高は、フコクしんらい生命で同6.4%増加。2社合算のマイナス幅は縮小

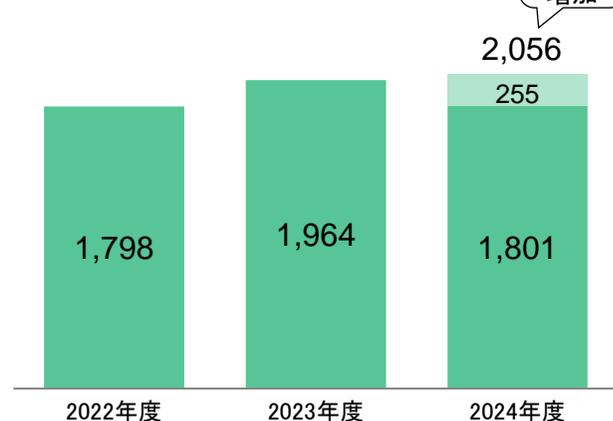
保険料等収入

(億円) ■個人保険分野 ■団体保険分野 ■フコクしんらい生命



金融機関による貯蓄性商品の販売実績(フコクしんらい生命)

(億円) ■利率更改型一時払終身保険 ■利率固定型一時払終身保険



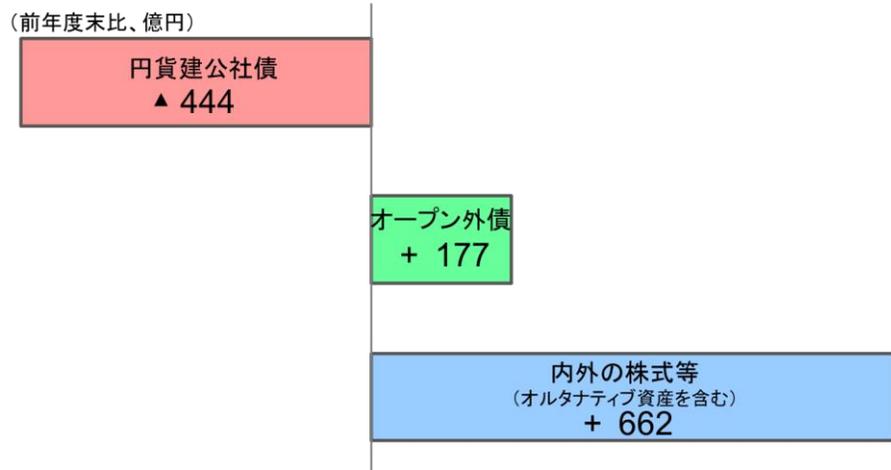
- 保険料等収入は、前年度比1.8%増加
- フコクしんらい生命の一時払終身保険は引き続き好調

- フコクしんらい生命での信用金庫を中心とした金融機関による貯蓄性商品の販売実績は、前年度比4.7%増加し、7年連続で増加
- 2024年4月より、金融機関窓販で利率固定型一時払終身保険を販売開始

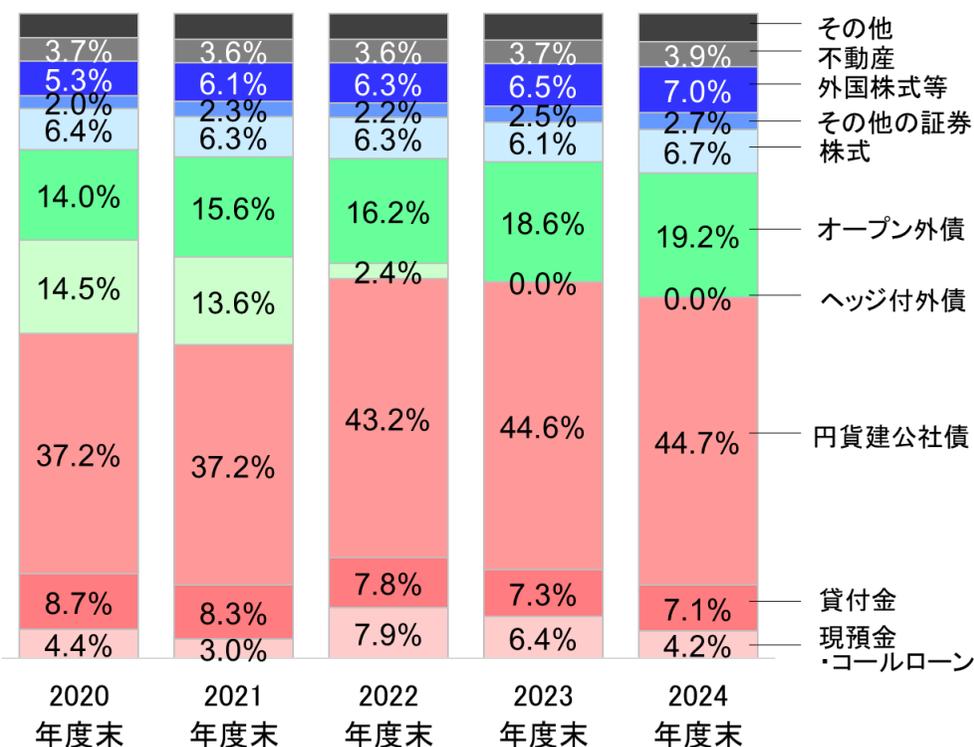
資産運用の状況（1）資産配分等（富国生命単体）

- これまでの超低金利環境の下では、国債への投資を極力控えてきた。これにより、国内の金利水準が高まるなかでも含み損は相対的に少なく、また、十分な超長期国債の買入れ余地がある。2024年度は、円貨建公社債について、金利動向を睨みながら、利回りの低い銘柄を売却し、相対的に利回りの高い超長期国債を買い入れる、収益性向上のための銘柄入替を実施。一段と金利水準が高まった年度終盤には、超長期国債の買入れを進めた
- また、物価上昇が定着するなかで、中長期的に収益性の向上が見込める株式や、ヘッジファンドなどのオルタナティブ資産を積増し。加えて、オープン外債について、償還が近い銘柄を売却し為替の含み益を実現しつつ、仮に大幅な円高となっても十分な収益性を確保できる利回りが高い米国超長期国債を中心に積増し

主な運用資産の帳簿価額残高の増減額



一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)



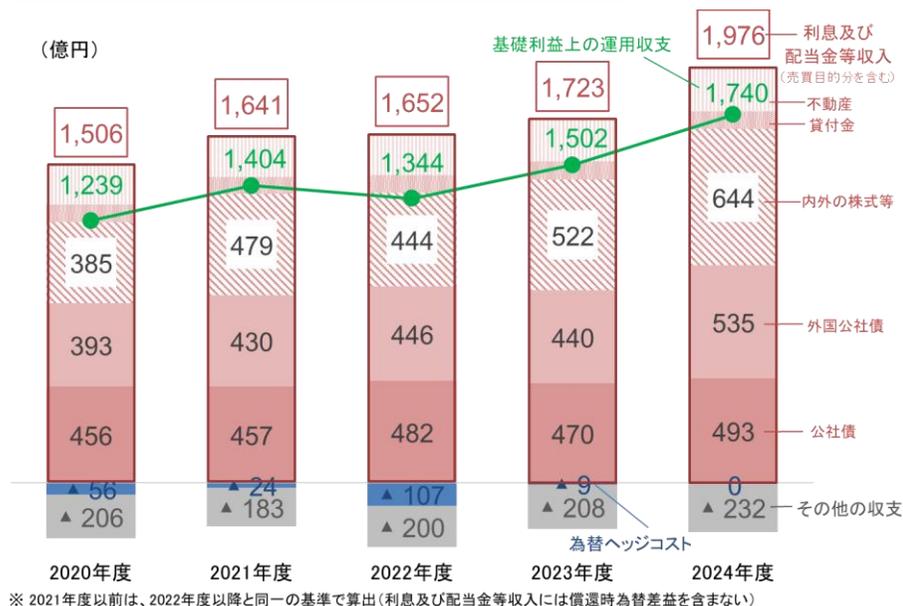
円貨建公社債ポートフォリオの入替状況(2024年度)

(単位: 億円)	簿価	利回り	残存期間	売却損益
売却	3,686	0.76%	20.3年	▲ 814
購入	3,519	2.81%	29.6年	-

※利回り向上を目的に売買を実施したものを集計
利回りおよび残存期間はそれぞれ加重平均利回りと加重平均残存期間

資産運用の状況（2）基礎利益上の運用収支等（富国生命単体）

基礎利益上の運用収支の状況

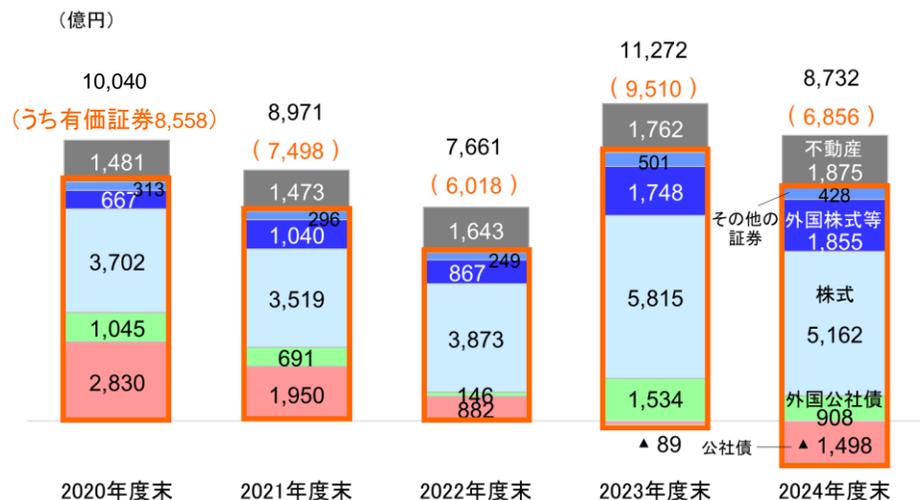


※ 2021年度以前は、2022年度以降と同一の基準で算出（利息及び配当金等収入には償還時為替差益を含まない）

- 利息及び配当金等収入は、前年度比14.7%増加し、7年連続で過去最高※を更新。主な増加要因は以下の通り
 - ✓ オープン外債の積増しや、内外の公社債の収益性向上のための銘柄入替えによる利息の増加
 - ✓ 内外の株式の増配及び株式ファンドの分配金の増加
 - ✓ 為替が前年度に比べ円安水準で推移したことによる外国証券の利息及び配当金の増加
- 為替ヘッジコストは、ヘッジ付外債の残高ゼロを維持したため、発生せず
- この結果、基礎利益上の運用収支は同15.8%増加の1,740億円と、過去最高となった

※ 2022年度は比較可能な調整値との前年比較

有価証券・不動産の含み損益

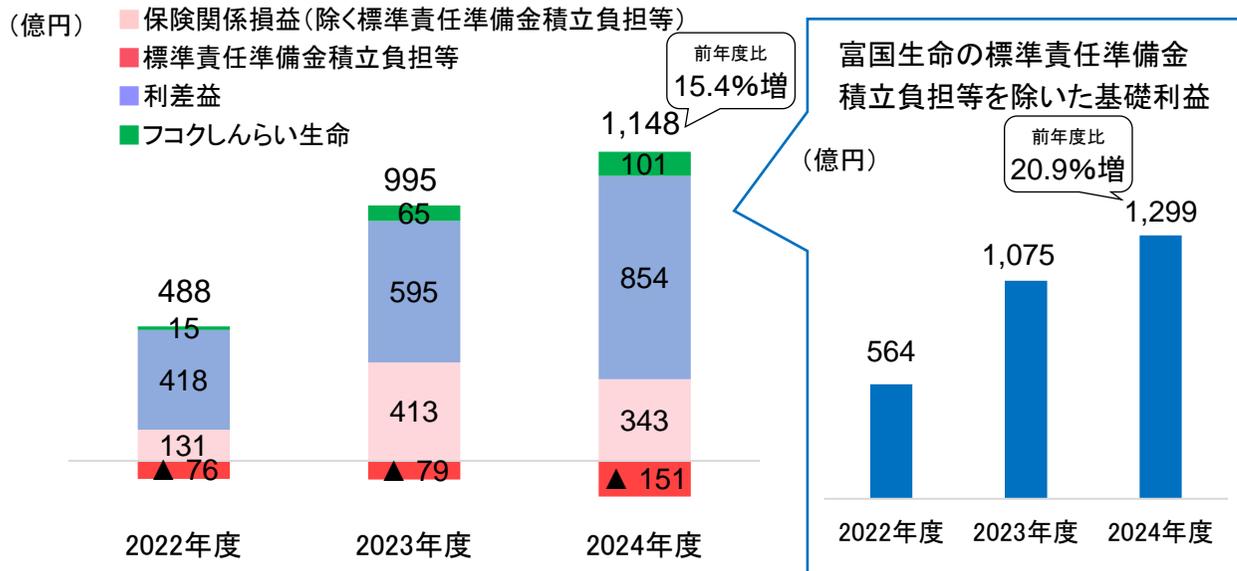


- 有価証券の含み益は、国内の金利上昇により公社債の含み損が増加したものの、6,856億円を確保
 - ✓ 公社債の含み損は、超低金利環境下での国債への投資を控えてきたことから限定的※
 - ✓ 外国公社債の含み益は、前年度末から為替が円高水準となったことから減少
- 有価証券と不動産の含み益の合計額は、前年度末比22.5%減少の8,732億円

※ 帳簿価額残高2兆9,366億円に対し、含み損1,498億円にとどまる

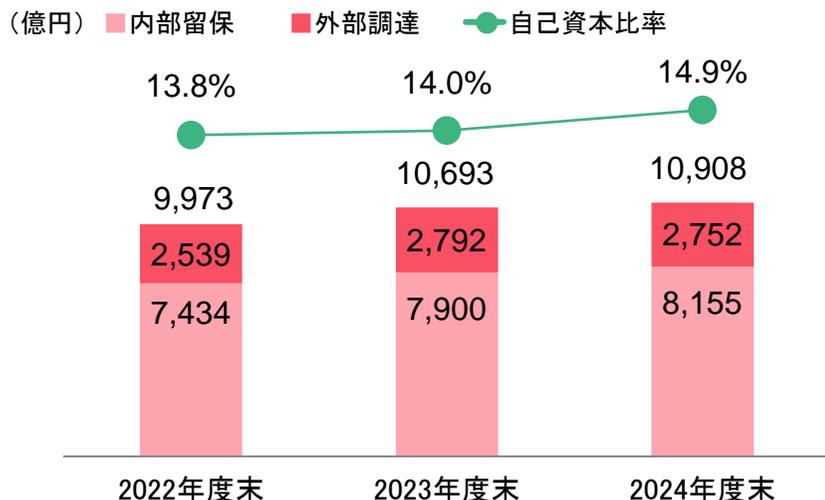
基礎利益、自己資本の状況

基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- 基礎利益は、前年度比15.4%増加の1,148億円となり、2年連続過去最高
- 富国生命の基礎利益は、外貨建公社債利息や内外株式配当金の増加などによる利差益の増加が、全体を押し上げ
- フコクしんらい生命の基礎利益は、一時払終身保険の販売好調による保険関係損益の改善等により、大幅に増加
- 富国生命の標準責任準備金積立負担等を除いた合算の基礎利益は、同20.9%増の1,299億円

オンバランスの自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)

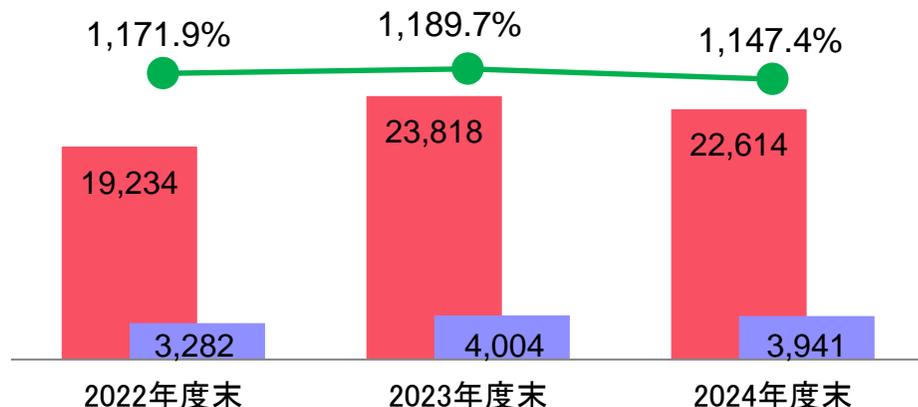


- 有価証券や土地の含み益に頼らないオンバランスの自己資本を重視し、市場動向に左右されない健全性を追求
- 自己資本比率は、14.9%と高水準
- 負債性内部留保(危険準備金・価格変動準備金)は、ほぼ積立限度額まで積立て

健全性の状況

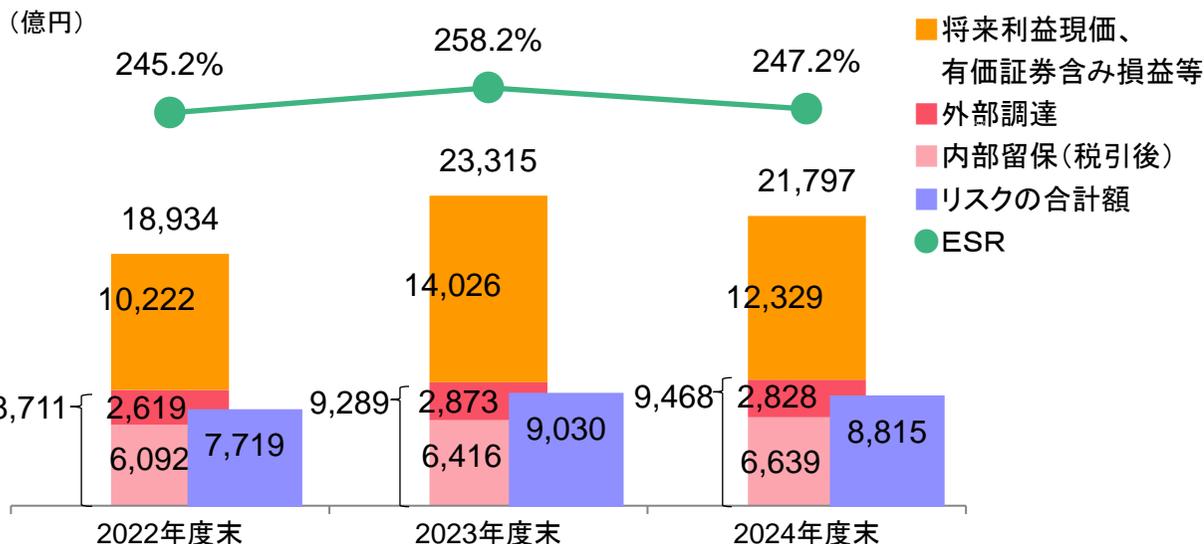
連結ソルベンシー・マージン比率

(億円) ■ ソルベンシー・マージン総額 ■ リスクの合計額 ● ソルベンシー・マージン比率



- 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比42.3ポイント低下の1,147.4%
- 国内金利の上昇による有価証券含み益の減少などにより低下したものの、引き続き高い水準を維持

【ご参考】連結経済価値ベースのソルベンシー比率(ESR)



- ◆ 連結ESRは、前年度末比11.0ポイント低下の247.2%
- ◆ オンバランスの自己資本(内部留保+外部調達)は、リスクの合計額を上回り引き続き高い水準を維持

・ESRとは、経済価値ベースの自己資本のリスク(信頼水準99.5%、税効果反映後)に対する比率である。当社では、同指標の経営への活用において先行している欧州の手法に準拠したものを、統合的リスク管理(ERM)に用いている

2024年度決算の社員配当金案

- 「より早くより多く、長く続けて頂いた方にはさらに多く配当をお返ししたい」という想いのもと、個人保険分野で13年連続の増配、増配額は前年度の約2倍の101億円で過去最大、個人保険分野の基礎利益に対する配当還元率は44%
- 有配当契約の87%(305万件)に配当、純剰余に対する配当還元率(配当性向)は71%※
 (※) 社員配当準備金繰入額(462億円) ÷ 純剰余(653億円、当期純剰余に内部留保の超過繰入額を加算し基金利息等を控除した額)

個人保険分野の社員配当金案

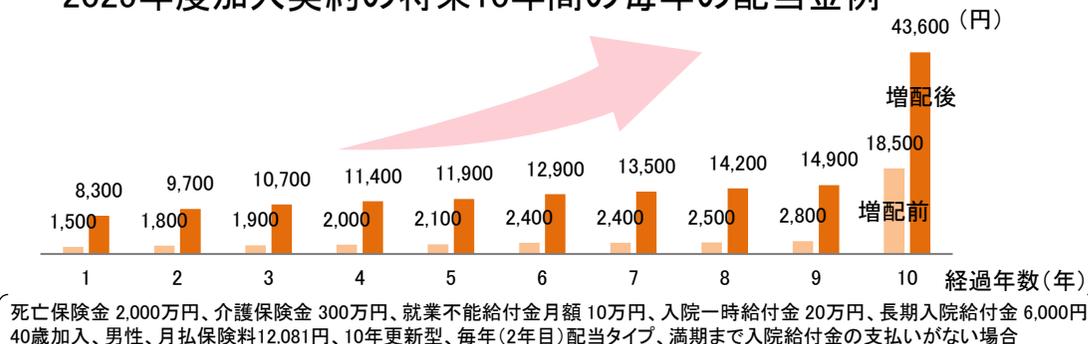
- 危険差配当や満期時の特別配当など幅広く増配
- 「THE MUTUAL プラス配当」を新設し、通常配当でお返しできなかった部分を早期に還元
- 金利上昇にキャッチアップした利差配当の増配

【医療パック未来のとびら】

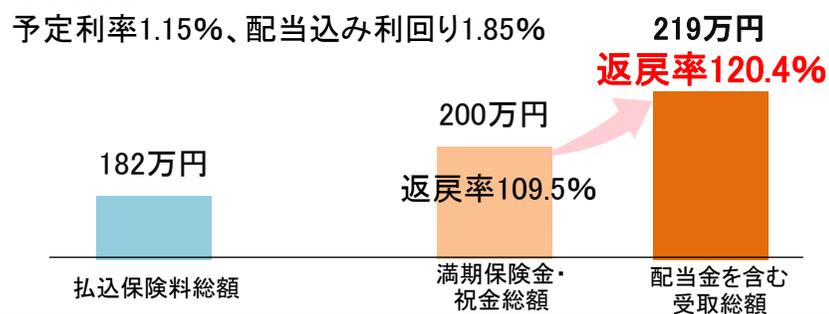
- ・2025年度に10年目を迎える代表的な契約の10年累計配当金は保険料の1.2年分を上回る(P13の図表2参照)



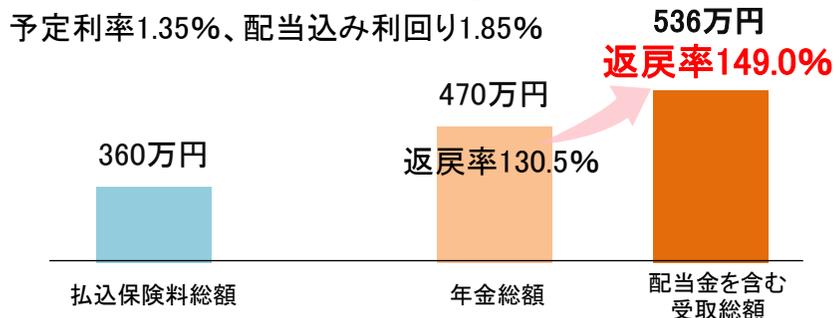
- ・2025年度加入契約の将来10年間の毎年の配当金例



【学資保険(みらいのつばさ)】2025年度加入契約(P14参照)



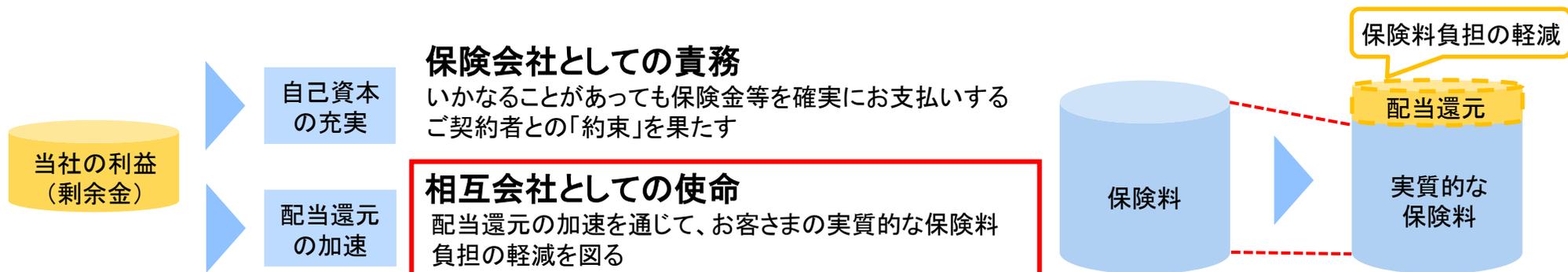
【個人年金保険(みらいプラス)】2025年度加入契約(P14参照)



上記の例示は2024年度決算の社員配当金案に基づく配当率で据え置いた場合の金額です。

配当還元の加速

- 2025年度よりスタートした新中期経営計画「THE MUTUAL ACT 2027」では配当還元を加速し、10年累計配当金が保険料の2年分相当となることを目指す
- 安定した利益を確保し、配当還元の加速を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減を図ることが「相互会社としての使命」であり、引き続きこれを実践



【主力商品に係る代表的な契約】

2023年度決算

12年連続増配により、2024年度に10年目を迎える契約の10年累計配当金が**保険料の1年分**を上回る

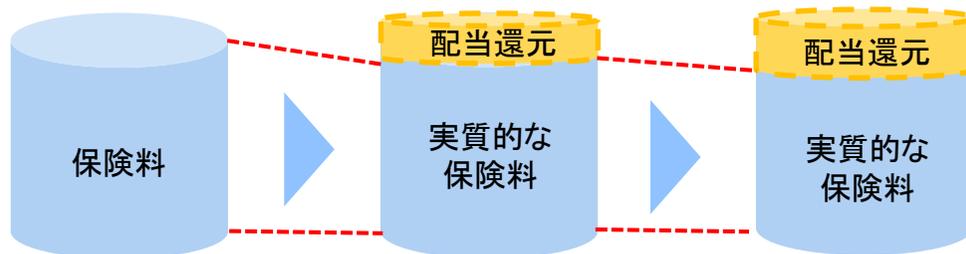
2024年度決算(案)

13年連続増配により、2025年度に10年目を迎える契約の10年累計配当金が**保険料の1.2年分**を上回る

THE MUTUAL ACT 2027

2027年度に10年目を迎える契約の10年累計配当金が、**保険料の2年分相当**となることを目指す

※代表的な契約例: 医療バック未来のとびら (5年ごと配当契約)
40歳男性、月払、10年更新型
死亡保険金 2,000万円、介護保険金 300万円
就業不能年金 140万円、入院日額 6,000円



【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」の概要(全体像)

- 2025年4月より、3カ年の新中期経営計画「THE MUTUAL ACT 2027」がスタート
- 強固な自己資本を裏付けとしたリスク・テイクによる優れた収益性のさらなる向上を図る「運用と保険、両輪での成長に向けた取組み」と、「お客さま」「地域・社会」「職員」との共感・つながり・支えあいの深化に向けた「ステークホルダー別の取組み」を推進
- これらの取組みを徹底的な差別化で推進し、経営ビジョンの実現を目指す

経営ビジョン

お客さま満足度No.1の生保会社となる

お客さま一人ひとりに
とっての満足度No.1

日本の生命保険会社の中で
お客さま満足度No.1



経営戦略

あらゆる分野で差別化を徹底的に追求する

THE MUTUAL ACT 2027

強固な自己資本を裏付けとした
リスク・テイクによる優れた収益性の
さらなる向上を図ること

運用

保険

両輪での成長

THE MUTUAL

共感・つながり・支えあいの深化

お客さま

地域・社会

職員

お客さま、地域・社会、職員との
共感・つながり・支えあいを深めること

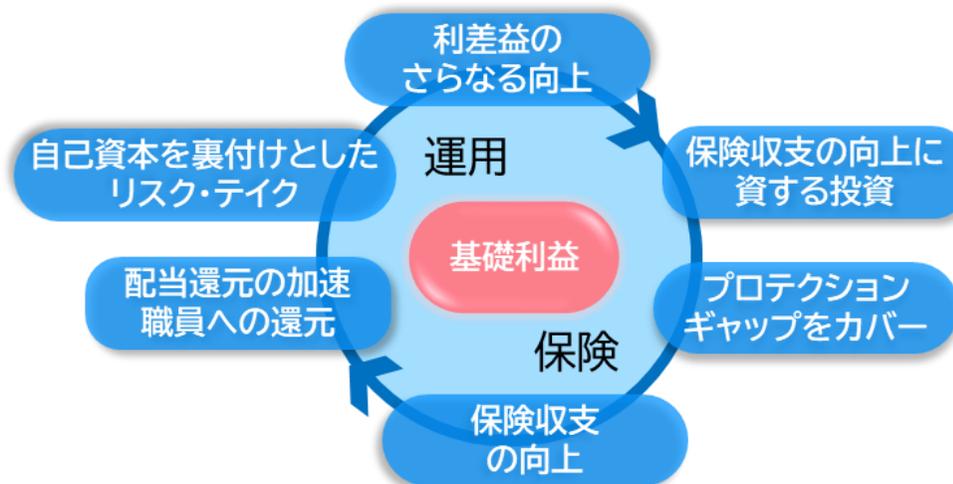
【ご参考】「THE MUTUAL ACT 2027」の概要(経営指標等)

運用と保険、両輪での成長に向けた取組み

- 「相互会社としての使命」である配当還元の加速を図るためには、成長し利益を上げていくことが必要。当社は、これを海外保険会社の買収や他業態への進出ではなく国内生保事業に集中し、強固な自己資本を裏付けとしたリスク・テイクにより実現

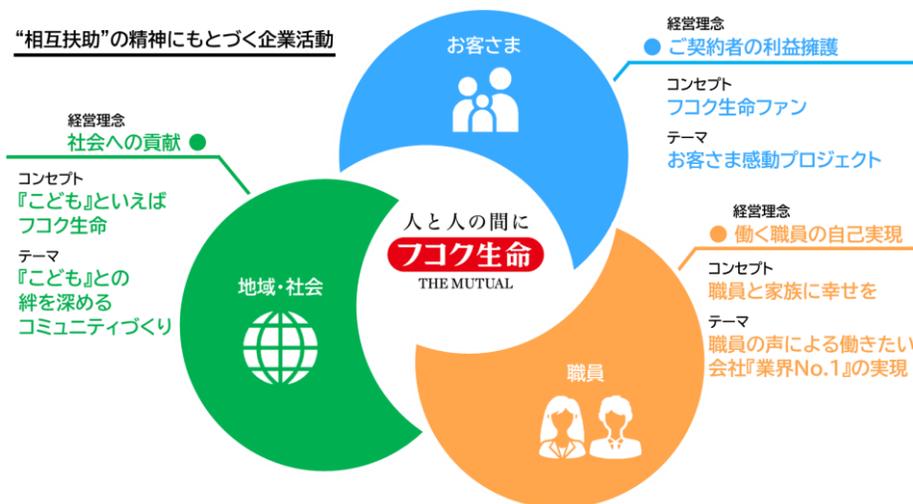
経営指標	2027年度末
1 基礎利益(※1)	1,200億円
2 自己資本	1兆2,000億円
3 ESR(※2)	安定的に200~230%を維持
4 配当(※3)	10年累計配当金 = 保険料2年分

※1 標準責準備立負担等を除く、※2 富国生命内部モデル、※3 2017年度加入の主力商品に係る代表的な契約



ステークホルダー別の取組み

- 「お客さま」「地域・社会」「職員」の各ステークホルダーが当社に期待する姿をイメージし、右図のコンセプトとテーマのもと若手職員を中心としたボトムアップでCS(お客さまの満足)・ES(職員の満足)が連動して向上する施策に取り組んでいく



【ご参考】13年連続増配の内容と個人保険の配当金例

【図表1】 13年連続増配の内容

2012	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康配当の増配 入院給付金のお支払いがない医療保険が対象。(2005年度より実施) ✓ 死差配当の増配、利差配当の増配
2013	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 死亡保険の増配、利差配当の増配
2014	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 死亡保険の増配、医療保険の増配 ✓ 死亡保険の長期継続特別配当を13年ぶりに復活。経過10年以上の満期契約を対象
2015	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康配当の増配
2016	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 死亡保険の増配、健康配当の増配
2017	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2018年4月の料率改定をふまえ公平性確保の観点から改定前の死亡保険に対して予定死亡率の差相当を配当還元
2018	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康配当の増配
2019	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 健康配当の増配 ✓ 医療保険の長期継続特別配当を新設 経過10年以上の満期契約を対象
2020	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 死亡保険の増配、医療保険の増配
2021	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 死亡保険の増配、健康配当の増配 ✓ 就業不能の配当を新設
2022	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学資保険の料率改定をふまえ改定前の学資保険に対して予定利率の差相当を配当還元 ✓ 100周年記念配当
2023	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人年金の料率改定をふまえ改定前の個人年金に対して予定利率の差相当を配当還元 ✓ その他の貯蓄性商品も含め、金利上昇にキャッチアップした利差配当の増配
2024	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 危険差配当に加えて、利差配当や満期時にお支払いする特別配当を含め幅広く増配 ✓ THE MUTUAL プラス配当を新設

…赤枠囲みは、調整配当

(調整配当とは、料率改定の前後のご契約で不公平がないように、改定前のご契約にお支払いする配当)

【図表2】 個人保険の配当金例

医療パック未来のとびら (5年ごと配当契約)

死亡保険金 2,000万円、介護保険金 300万円、就業不能年金 140万円、入院日額 6,000円
2015年度加入(経過10年)、男性、月払、10年更新型、満期まで入院給付金の支払いがない場合の例示

13年連続増配により上記の代表的な契約の10年累計配当金(181,396円)は、保険料(149,928円)の1.2年分を上回る

決算年度	各年度の配当金	13年連続増配との対応
2015	0円	
2016	0円	
2017	7,600円	2017年度の増配内容を反映
2018	8,800円	
2019	25,416円	2015～2019年度の増配内容を反映
2020	11,600円	
2021	12,600円	2017年度の増配内容を反映
2022	13,800円	
2023	15,000円	2015～2021年度および2023年度の増配内容、2024年度の配当金案を反映
2024	86,439円	
累計額	181,396円	(左記累計額には、配当金の積立利息を含む)

【ご参考】学資保険と個人年金保険の配当金例

2025年度加入契約が保険期間満了まで継続した場合の配当金と返戻率※の例

(※) 保険期間満了までの払込保険料総額に対する受取総額の割合

【学資保険「みらいのつばさ」(販売年度:2023年度～、予定利率:1.15%)】

(0歳加入(契約者:男性、30歳)、口座振替月払、5年ごと配当タイプ、満期保険金額100万円の例示)

	払込保険料総額	満期保険金・祝金総額	配当金を含む受取総額
ステップ型 17歳払込満了	2,017,560 円	2,100,000 円 (返戻率 104.0%)	2,252,200 円(うち配当金152,200円) (返戻率 111.6%)
ジャンプ型 11歳払込満了	1,825,956 円	2,000,000 円 (返戻率 109.5%)	2,199,200 円(うち配当金199,200円) (返戻率 120.4%)

【個人年金保険「みらいプラス」(販売年度:2024年度～、予定利率:1.35%(年金開始前期間25年以上)、1.15%(同25年未満))】

(保険料払込期間30年、据置期間10年、10年確定年金(定額型)、口座振替月払、毎年(3年目)配当タイプ、月払保険料1万円の例示)

払込保険料総額	年金総額	配当金を含む受取総額
3,600,000 円	4,701,000 円 (返戻率 130.5%)	5,366,600 円(うち配当金665,600円) (返戻率 149.0%)

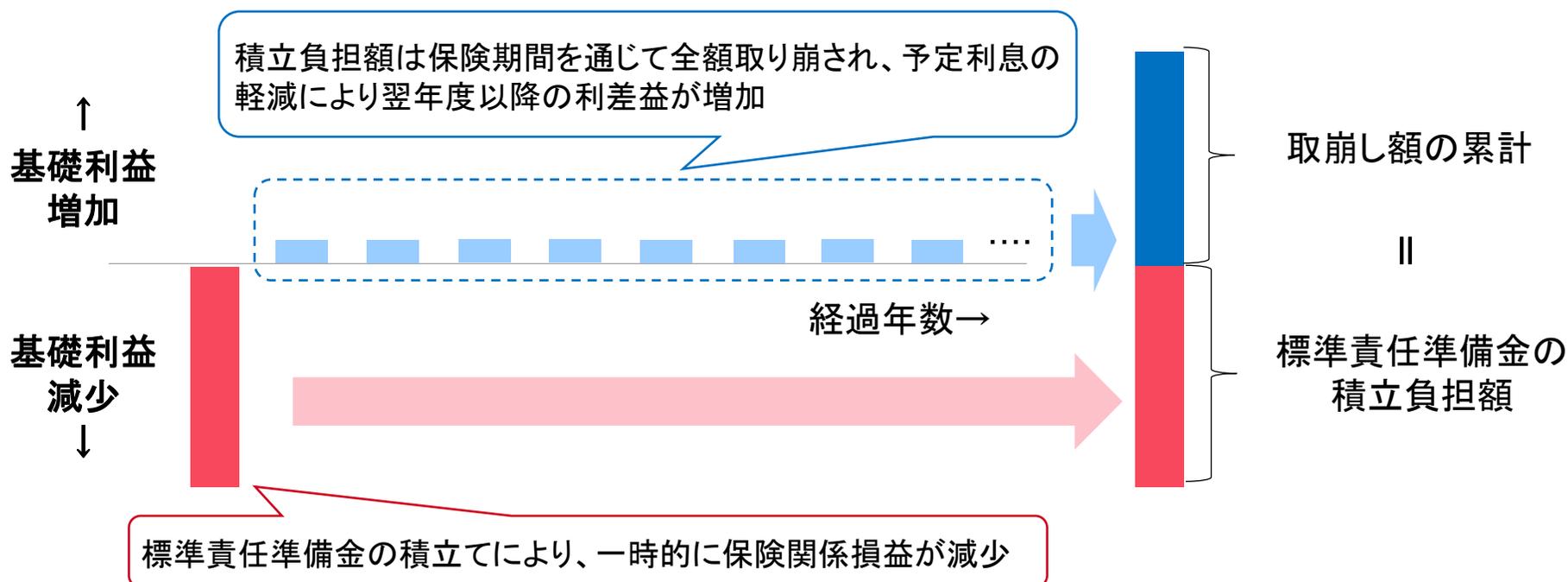
上記の配当金には預り利率(0.5%)による利息を含みます。2024年度決算の社員配当金案に基づく配当率で据え置いた場合の金額です。

【ご参考】標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響

- 個人年金「みらいプラス」は、2024年4月より標準利率(0.25%)を上回る予定利率(1.15%、1.35%)※を設定しているため、標準責任準備金の積立負担が生じる
- 標準責任準備金の積立負担は一時的に基礎利益の減少をもたらすものの、保険期間を通じて全額取り崩され、予定利息の軽減により翌年度以降の利差益の増加に貢献する

※1.15%:年金開始までの年数が25年未満、1.35%:年金開始までの年数が25年以上

【標準責任準備金の積立てによる基礎利益への影響(イメージ図)】



【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

(億円)

	2022年度	2023年度		2024年度	
			増減率/pt		増減率/pt
新契約高 ^(※)	16,673	14,738	▲ 11.6%	15,991	8.5%
富国生命	14,097	11,666	▲ 17.2%	12,508	7.2%
フコクしんらい生命	2,575	3,071	19.3%	3,483	13.4%
保有契約高 ^(※)	265,630	260,909	▲ 1.8%	257,939	▲ 1.1%
富国生命	243,456	237,583	▲ 2.4%	233,117	▲ 1.9%
フコクしんらい生命	22,173	23,325	5.2%	24,822	6.4%
新契約年換算保険料 ^(※)	295	315	6.6%	353	12.3%
富国生命	141	141	▲ 0.4%	159	12.8%
フコクしんらい生命	154	174	13.0%	194	11.9%
保有契約年換算保険料 ^(※)	5,498	5,436	▲ 1.1%	5,245	▲ 3.5%
富国生命	3,695	3,648	▲ 1.3%	3,601	▲ 1.3%
フコクしんらい生命	1,802	1,787	▲ 0.8%	1,644	▲ 8.0%
保険料等収入	7,606	7,583	▲ 0.3%	7,721	1.8%
富国生命	5,260	4,914	▲ 6.6%	4,871	▲ 0.9%
フコクしんらい生命	2,345	2,668	13.8%	2,849	6.8%
基礎利益	488	995	2.0倍	1,148	15.4%
富国生命	472	930	96.7%	1,046	12.6%
保険関係損益	54	334	6.2倍	192	▲ 42.5%
利差	418	595	42.4%	854	43.4%
フコクしんらい生命	15	65	4.3倍	101	55.5%
連結ソルベンシー・マージン比率	1,171.9%	1,189.7%	+ 17.8pt	1,147.4%	▲ 42.3pt
富国生命	1,133.8%	1,147.0%	+ 13.2pt	1,108.0%	▲ 39.0pt
フコクしんらい生命	1,068.9%	996.5%	▲ 72.4pt	901.0%	▲ 95.5pt

※ 個人保険と個人年金保険の合計

【ご参考】2025年度業績見通し

- 保険料等収入は、富国生命で2025年4月に発売した一時払終身保険により増加を見込むものの、フコクしんらい生命で減少する見通しのため、横ばい
- 基礎利益は、富国生命で新たな利益配分方針に基づく従業員の給与引上げを主な要因として、過去最高となった2024年度と比べて減少

保険料等収入

(億円)

	2024年度	2025年度 見通し
2社合算	7,721	横ばい
富国生命	4,871	増加
フコク しんらい生命	2,849	減少

基礎利益[※]

(億円)

	2024年度	2025年度 見通し
2社合算	1,299	減少
富国生命	1,198	減少
フコク しんらい生命	101	横ばい

※富国生命の標準責任準備金積立負担等を除く